第6回DRFワークショップ＠北海道大学
「これまでの5年間、これからの5年間」

次世代学術コンテンツ基盤構築 – NIIがめざす近未来 –

2010年2月5日（金）

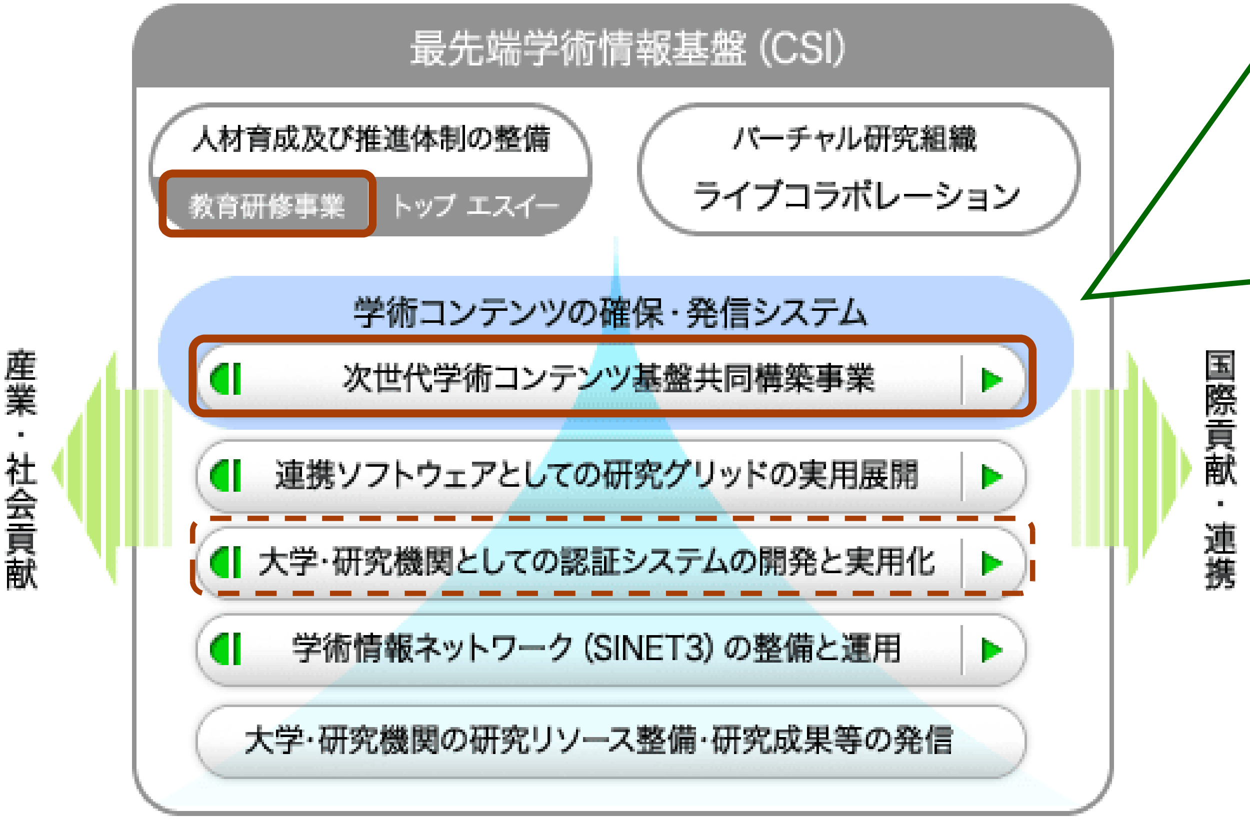
IRP
学術機関リポジトリ構築連携支援事業

国立情報学研究所　学術基盤推進部
学術コンテンツ課　図書館連携チーム
（IR/SPARC担当）杉田いづみ
http://www.nii.ac.jp/irp/
http://www.nii.ac.jp/sparc/
izumi@nii.ac.jp

最先端学術情報基盤(CSI)の推進

■大学等学術機関とNIIの連携により推進

（CSI: Cyber Science Infrastructure）



学術基盤推進部
学術コンテンツ課

コンテンツチーム
- 認証ﾌｪﾃﾞﾚｰｼｮﾝ
- GeNii (CiNii, WebcatPlus, KAKEN, DBR)
- 学会誌の電子化（ELS）
- 電子アーカイブ

図書館連携チーム
- NACSIS-CAT/ILL
- 研修事業
- 機関リポジトリ支援（JAIRO, IRDB）
- SPARC Japan

これからの3年間

- NII 学術情報サービスの近未来
  - CiNii, 研究者ﾘｿﾞﾙﾊﾞｰ, JAIRO, KAKENを中心に
- CSI第3期基本方針

NII 学術情報サービスの近未来

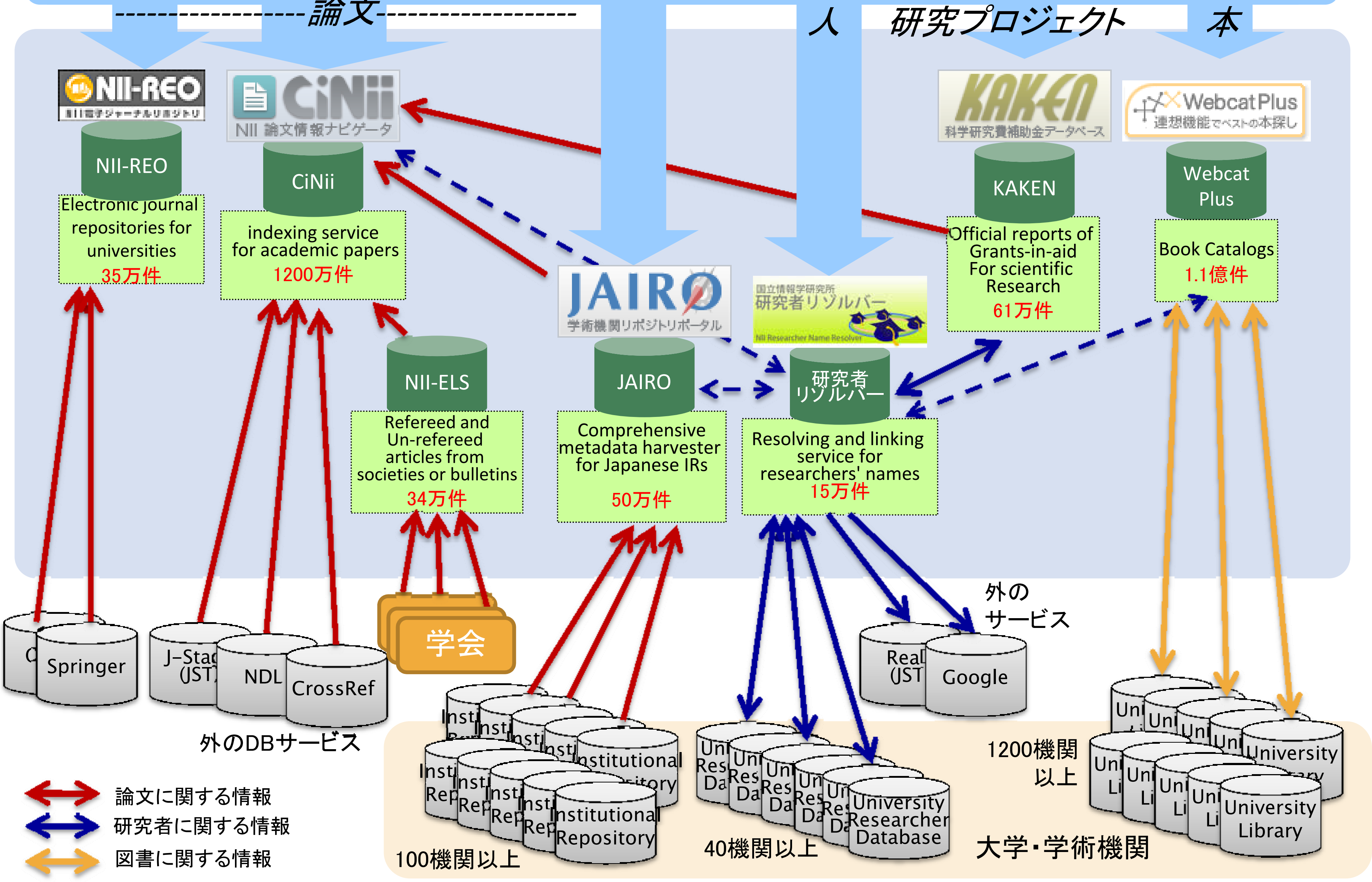
■キーワードは，

人。

- CiNiiもKAKENもJAIROも，人に着目したサービス展開を進めている。
- 全体像を，NII学術コンテンツサービス研究開発センター長・武田英明先生に聞いてみました。

参考：NII学術コンテンツサービス研究開発センター長・武田英明先生作成資料

NIIの学術情報サービス（現在＆近未来）



CiNiiの近未来

■CiNii2.5（仮称）

- 第11回図書館総合展の大向一輝先生の発表スライドにエッセンスがつまっています。

出典　CiNiiリニューアル記念ウェブAPIコンテスト発表会
「これからのCiNii」 大向一輝 (2009/11/11)
URL：　http://www.nii.ac.jp/content/event/libraryfair/

CiNiiの新機能

出典　CiNiiリニューアル記念ウェブAPIコンテスト発表会
「これからのCiNii」 大向一輝
URL：　http://www.nii.ac.jp/content/event/libraryfair/

※注意：
画面はイメージです。実際の
画面・データとは異なります。

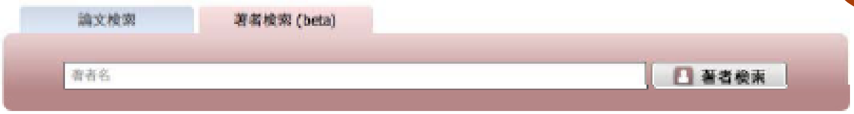
CiNiiの新機能

CiNii 2.5（仮称）

NII

- NII著者ID (NRID) の導入
  - 科研費番号＋機械処理による論文へのID付与
  - 同姓同名問題への対応
- NRIDベースの論文検索機能
  - 著者名入力→IDリスト→論文リスト
  - 通報機能

H22年4月
試行サービス
リリース
（予定）



National Institute of Informatics, Tokyo, Japan

出典　CiNiiリニューアル記念ウェブAPIコンテスト発表会
「これからのCiNii」 大向一輝
URL：　http://www.nii.ac.jp/content/event/libraryfair/

※注意：
画面はイメージです。実際の
画面・データとは異なります。

CiNiiの新しい著者検索を有効にするために

- 「junii2ガイドライン」
  - “creator”項目必見！
    - 「junii2には，１作成者について，出力する表記形は1つのみで，同一作成者の異表記形を出力しない」
    - ガイドライン案公開・パブコメ受付（2009/12/17）
    - 現在最終まとめ中（近日公開予定）

図書館連携作業部会WG2（IRシステム検討WG）
メタデータ検討班による力作
班長：静岡大・杉山さん
班員：北大・野中さん，千葉大・武内さん

- 今後の課題
  - junii3（仮称）の検討。メタデータの構造化等

参考　NII学術機関リポジトリ構築連携支援事業システム情報
「junii2ガイドライン（案）」の公開
URL:　http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/junii2_guide.html

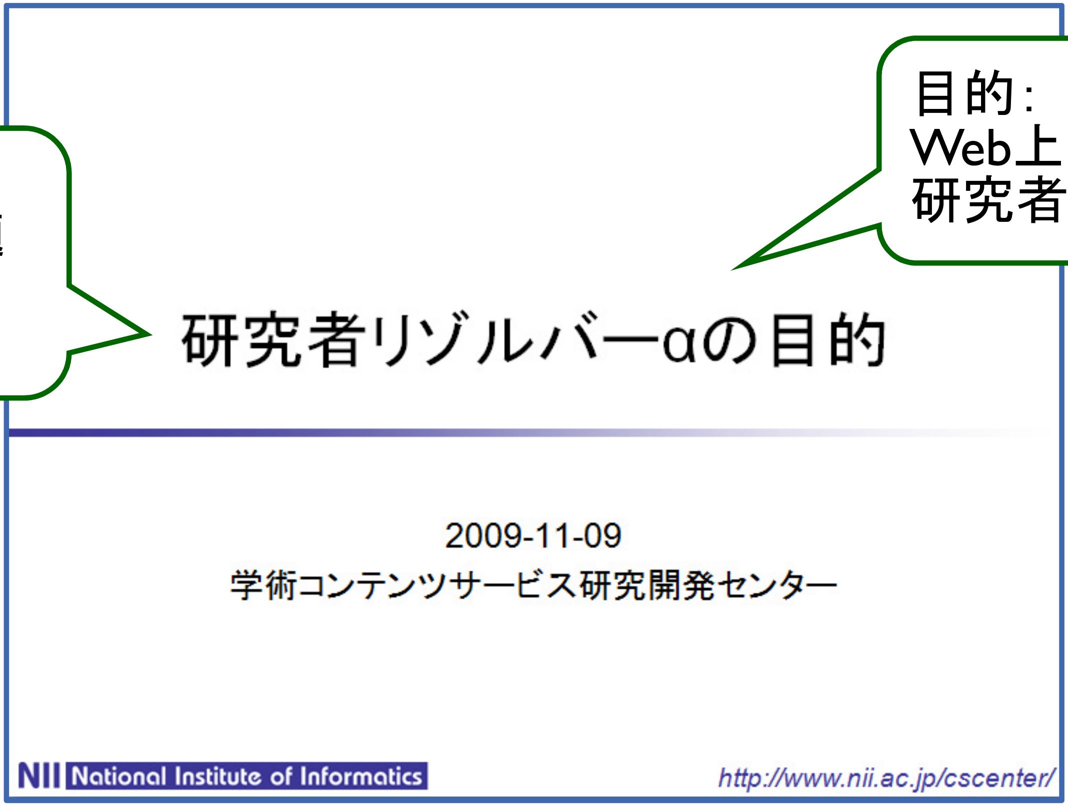
研究者リゾルバーの近未来

■研究者リゾルバーにご注目

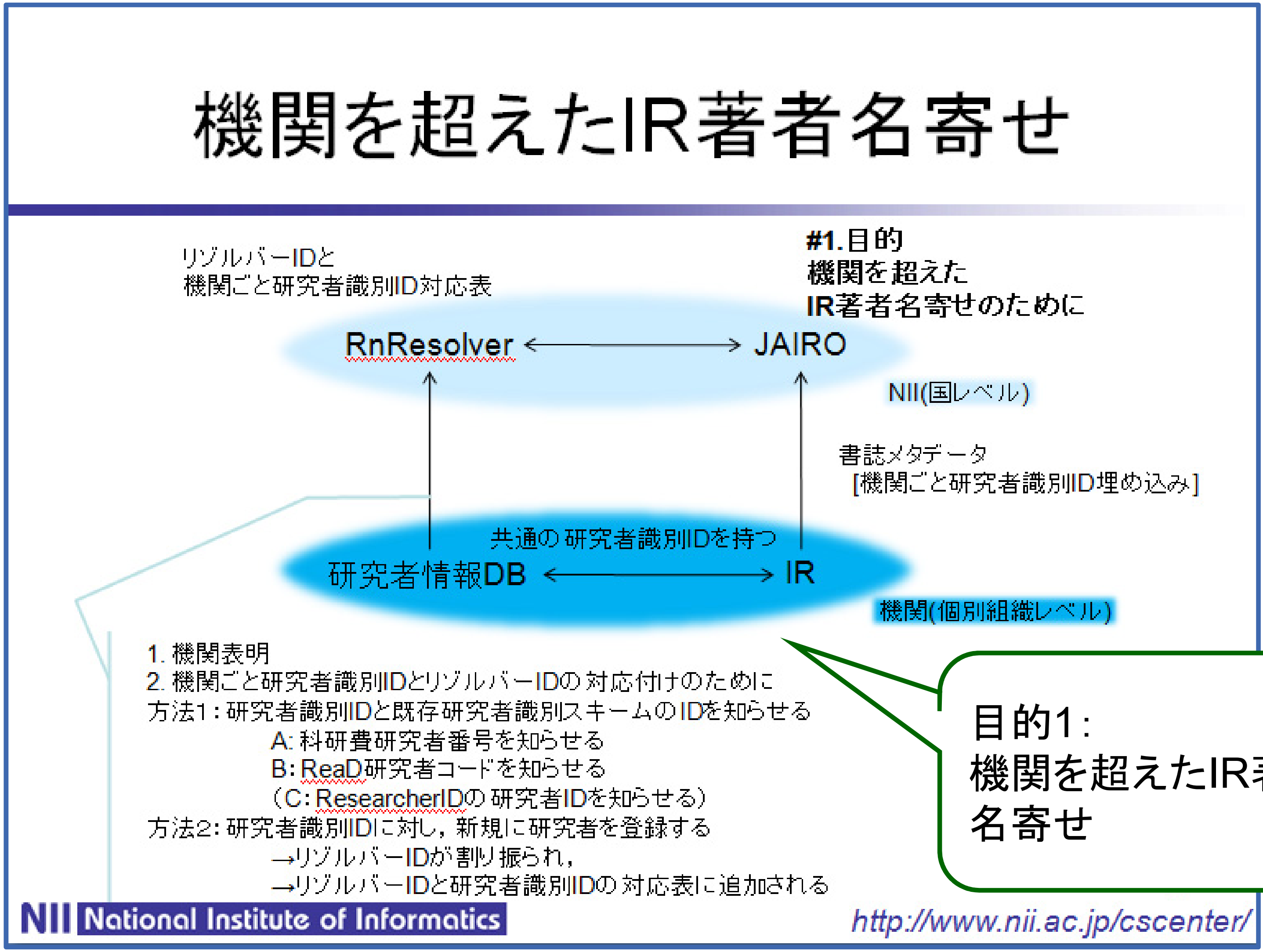
- ●NII学術コンテンツサービス研究開発センター
蔵川圭先生に聞いてみました。

背景:
著者名検索の課題
・同姓同名
・異標記

目的:
Web上の日本人
研究者典拠



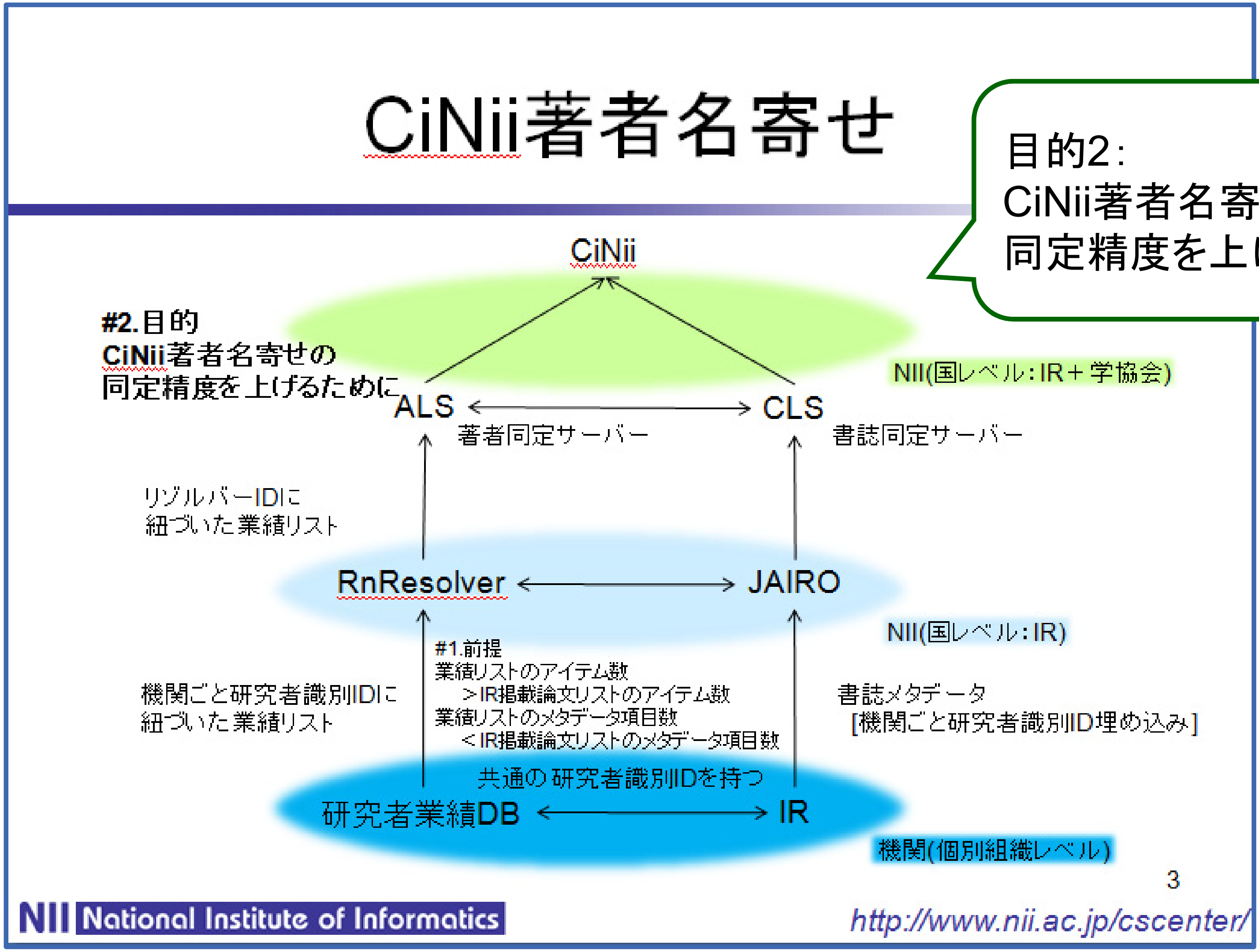
研究者リゾルバーとIRと研究者DBの近未来



目的1:
機関を超えたIR著者名名寄せ

出典「研究者リゾルバーαの目的」蔵川圭(2009/11)

さらにCiNiiの著者名寄せにも



目的2：
CiNii著者名寄せの
同定精度を上げる

出典「研究者リゾルバーαの目的」蔵川圭(2009/11)

JAIROの新機能

■ この著者の詳細を見る

- 著者IDを持つデータの場合，研究者リゾルバーとKAKENへのダイレクトリンクを実現します

学術ｺﾝﾃﾝﾂｻｰﾋﾞｽ研究開発センターと
第2期CSI委託事業（領域2）
「研究者情報ｼｽﾃﾑ連携プログラム
(Maiidentity) 」
(金沢大学)のｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ。

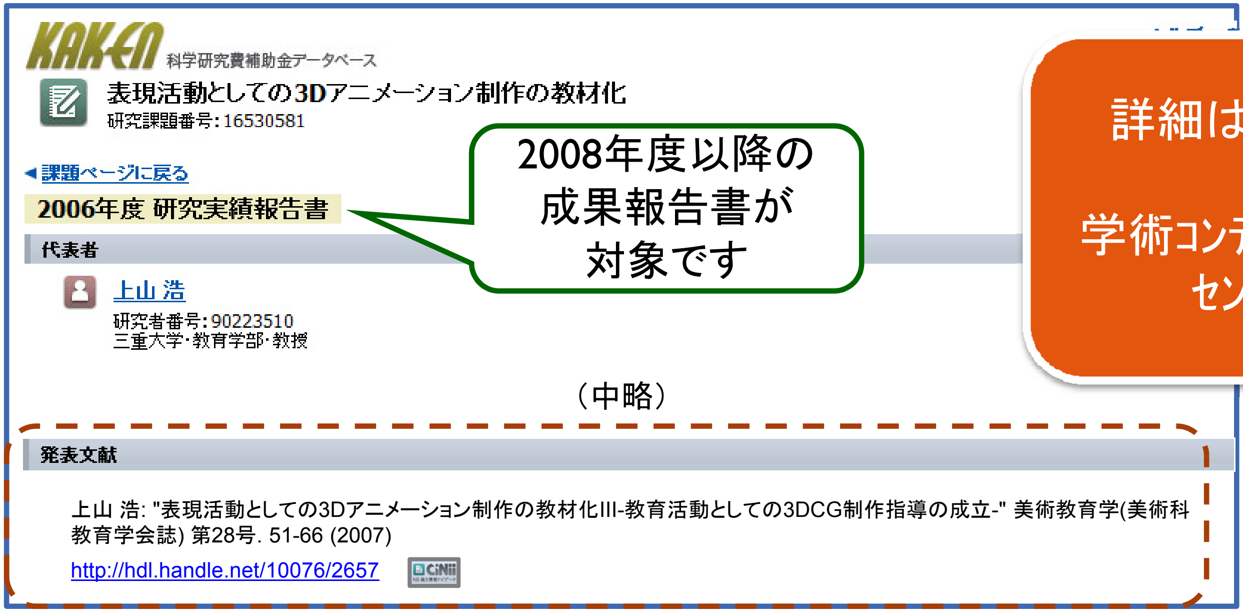
詳細は，H22年度公開。
成果にご期待ください！

※注意：
画面はイメージです。実際の
画面・データとは異なります。

KAKENの新機能

■ IR本文へのリンク

- 科研費の研究成果報告書に機関リポジトリのコンテンツのアドレスが記述されている場合，リンクを実現します



詳細は，H22年度公開。

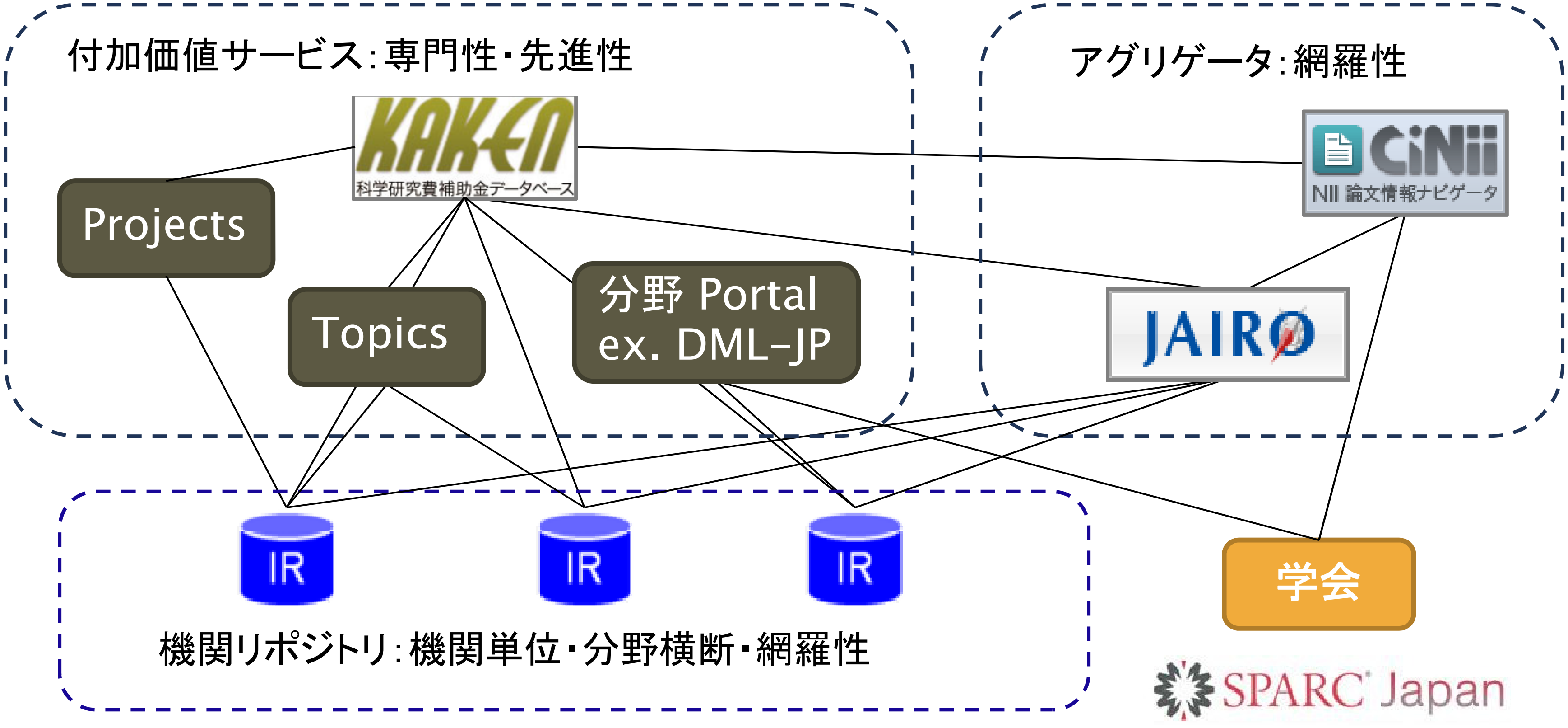
学術コンテンツサービス研究開発センターで開発中。

※注意：
画面はイメージです。実際の画面・データとは異なります。

参考　「様式C-19（記入例）科学研究費補助金研究成果報告書」
H21年度研究成果報告書から，「論文等の研究成果を機関リポジトリで公開している場合は，論文等にアクセスするためのアドレスを記入すること」が明記された。
URL：　http://kikou.doshisha.ac.jp/gakugai/kagaku/C-19/jspsseika_chui.pdf

機関リポジトリから見た将来構想

- 揺籃期から発展期へ
  - 利用者にとって使えるサービス・質
  - 重層的なサービス群



出典　“A Retrospective of NII Projects on New Perspectives in CSI”
Jun Adachi (NII) (2009/12/04)
URL：http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRFIC2009

CSI第3期基本方針

- 第2期までの成果と課題を受け，第3期は以下の3点を基本方針とする。

(1) 研究教育の活性化を図り，学術コンテンツのオープンアクセスを進展させるために，平成22年度～24年度の3年間を第3期と位置づけ，本事業を継続する。

(2) 委託事業の内容として，領域1を引き継ぐ「コンテンツ構築支援」，領域2を引き継ぐ「先導的プロジェクト支援」に加え，新たに「リポジトリ担当者コミュニティ支援（仮称）」を設定し，機関リポジトリの構築連携，機関リポジトリの高度化および付加価値向上，コミュニティの活性化を支援する。

(3) 機関リポジトリの構築を検討している大学向けに，NIIがシステム基盤（ハードウェア・ソフトウェア）を第3期中に整備し，リポジトリシステム構築の選択肢として提供する。

参考　NII学術機関リポジトリ構築連携支援事業ニュース
「平成22年度委託事業基本方針」
URL：　http://www.nii.ac.jp/irp/

一緒に作りましょう，次世代学術コンテンツ基盤

- CSI第3期委託事業へのご提案，プロジェクトへの積極的なご参加をお待ちしています。
- Special Thanks!
  - 平成21年度 学術コンテンツ運営・連携本部，図書館連携作業部会，WGメンバーの皆さま
    - WG1 新世代学術コンテンツ基盤システム検討WG
    - WG2 IRシステム検討WG
    - WG3 IRと学術情報発信高度化に向けた検討WG
    - WG4 第3期CSI事業検討WG
    - WG5 ERDB仕様検討WG
    - WG6 人文社会系電子コレクション検討WG

H22年度の体制，タスクは検討中です

“Our future is in your hands!”

詳細は･･･

■お問い合わせ先・情報入手先

国立情報学研究所
学術基盤推進部
学術コンテンツ課
図書館連携チーム
（機関リポジトリ担当）

ir@nii.ac.jp

http://www.nii.ac.jp/irp/